

ヨハネによる福音書3章16節 「世を愛してやまない神」

1A 啓示の神

1B 人々の思い描く神

1C 被造物

2C 自分の思いや願い

2B 無限の方

2A 世を愛される神

1B 愛される理由のない世

2B 神に逆らい、憎む世

3A 犠牲に表れる愛

1B 金銀より高価な犠牲

2B 罪人に対する贈り物

4A 世を愛する目的

1B 滅びから免れるため

1C 罪による当然の結果

2C あらゆることを備えた神

3C 人を必要としない神

2B 永遠の命を持つため

5A 「一人として」

本文

新年あけまして、おめでとうございます。今年初めの箇所は、ヨハネ 3 章 16 節です。今日は、本当は、午後礼拝で 3 章全体を見ていくつもりでしたが、あまりにも内容が濃いので、今週は前半、1 節から 21 節までを一節ずつ学び、再来週に後半、22 節から最後までを見ていきたいと思えます。今朝は、あまりにも有名な聖句であり、ヨハネ 3 章 16 節をじっくりと見ていきます。「**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**」

これは、イエス様のところにユダヤ人指導者のニコデモが近づいて、イエス様をラビと仰ぎ、神からの教師であると認めました。ところが、イエス様は新しく生まれなければ神の国に入れないと語られました。ニコデモはそれを理解することができませんでしたが、イエス様は、ご自分を信じる、信頼を寄せることによって、永遠のいのち、霊のいのちを持つことができると言われました。その後で語られたことです。宗教改革者のルターは、この聖句を「聖書の核心であり、福音のミニチュア版だ」と言いました。ここに、聖書全体のテーマがあり、そして、神の福音が凝縮されているということです。私たちが新年の初めに聞く言葉として、なんとふさわしいことでしょうか！ 主の心を知り、

主のご計画を知って、今年 2020 年というのはこういうことなのだ、と悟っていただければ幸いです。

1A 啓示の神

初めに、「神は」という言葉がから始まっています。私は、伝道をする時にしばしばこの言葉を使わせていただきますが、また私自身が伝道された時にこの言葉を読まされましたが、驚くことは、「ここに自分が何かをやった」ということがない、ということです。神が愛されたのであり、自分がここで神に対して何かをして、神がそれに応答して愛してくださったとか、そのように書いていないのです。ここからわかるのは、神は一方的に事を行われる主権者であり、権威者であり、すべてを支配している方であるということです。愛も一方的なもので、無条件なものだということです。

1B 人々の思い描く神

1C 被造物

ヨハネの生きていた時代、そこはローマ社会でありました。ギリシア文化が濃厚に残っている、ローマ社会でした。ユダヤ人であれば、神が主権者であり、万物を造り、支配しておられることは知っていましたが、異邦人は日々、絶え間なくギリシア神話やローマ神話の中にある神々に触れていました。人間のいろいろな有様において、それを生きているものであるかのようにして、また神であるかのようにしていきました。例えば、戦争においても、競技においても、勝利を目指しているのですが、ヨハネのいたエペソで、その遺跡で、ニーケーの女神を見ました。翼があり、ユーカリの枝を持っています。運動靴のブランド Nike はここから来ています。勝利を神としたのです。また、地上の権威を持っているローマ皇帝も、ローマ帝国を統合させるために新たに国民宗教として皇帝礼拝を盛んに行っていました。

そういった中で「神」と呼ばれる存在が、主権者でもなく、支配者でもありません。ギリシア神話に出てくる神々は、あまりにも人間臭い、いや我々人間以上に生々しく欲望をむき出しにします。罰(バチ)が当たったら、たまったものではないと感じてしまいます。事実、何か悪いことが起こると、それは神々を怒らせたからなのだと信じていました。

拉致被害者の横田めぐみさんのご両親で、早紀江さんは、めぐみさんが拉致されてからしばらくして、ヨブ記を通して信仰に入りました。その苦しみが神に知られていて、神の良い意図に支えられていることを知ったからです。けれども、横田滋さんは、信じていませんでした。早紀江さんによると、いろいろな宗教の人がやってきたのだそうです。こういった崇りがあるから、こうなっているのだ。だから供養しなければならない、というように言っていたのです。それで信用できなかったのです。ところが、その滋さんも、2017年11月4日にバプテスマを受けています。¹悪いことが起こったら崇りや罰(バチ)があるのだという考えに対して、ヨブ記にある、苦しみの背後にある神の慈しみは、神が主権者であり、支配者であるからこそ、知ることのできるものです。

¹ <https://www.facebook.com/190788354291443/posts/1509558812414384/>

2C 自分の思いや願い

ところで、私たちは心の奥底で、「こうなってほしい」という思いや願いがあります。たとえ自分が神々をあがめていないとしても、自分の感情や思いが強くて、人生こんなものだと決めつけています。そして、それが世界なのだと決めつけてしまっているのですが、実は自分の思いや願いが神のようになってしまっていることに気づいていません。その姿を使徒パウロは克明に、次のように描いています。「ロマ 1:21-23 彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。彼らは、自分たちは知者であると主張しながら愚かになり、朽ちない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥、獣、這うものに似たかたちと替えてしまいました。」

2014年に上映された「神は死んだのか」という映画で、大学教授が「神は死んだ」と学生たちに書かせて、それを拒否したクリスチャン学生に論戦を挑みます。神が存在するということをせせら笑い、いかに非科学的か？ということなのですが、どう考えてもあの憎悪はすごいものでした。ついに、その大学教授がクリスチャン学生に、吐き出します。「神がいないのではなく、神が憎いのだ」ということです。自分の幼い娘を大病でなくし、祈ったのに聞かれなかった。そのような神がいるものか！ということだったのです。そうやって、自分の悲しい思いや怒りが絶対になってしまっていて、それが神のようになってしまっています。

2B 無限の方

しかし、聖書の神は違います。私たちが何を感じていようが、考えていようが、「わたしは神なのだ」として、ご自身を啓示しておられる方なのです。神の私たちへの愛は、私たちが何を感じて、何を考えているかに基づいているのではなく、神がうんも言わせず、「わたしは愛である。わたしは、あなたを愛している」という、一方的な知識、啓示によるのです。神がご自身をそう示されていて、私たちはその愛を受け入れ、この方にひれ伏すのみなのです。神は主権者であり、支配者であり、無限の方です。その神が世を愛している、という啓示なのです。

2A 世を愛される神

そしてイエス様は、神が「**世を愛された**」とされています。

1B 愛される理由のない世

「**世**」とされていますが、まずもって、世界のすべての人々を愛しておられるということだけでもすごいです。自分の近くの人であれば親近感を持てますが、遠くの人々のために、私たちがどれだけ祈れるでしょうか？見たことも、聞いたことのない人々のために祈ることはできるでしょうか？けれども、世界宣教はまだ見たこともない人々のために祈ってきたことによって前進してきました。

そして何よりも、世というときは、「神に反抗している世界」という意味合いがあります。使徒ヨハネが言いました、「Iヨハ 2:16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自

慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。」ノアの時代のことを思い出してください、人々は悪いことに傾いていたということ。また、バベルの塔の事件を思い出してください、人々が神の命令に反して、集まって、塔を建て、天に届こうとしました。ここで、神が世を愛されたというのは、神を信じ、受け入れ、その命令に従う人々の世ではなく、その逆で、神を知らず、知憎むことさえある世です。世はそもそもが、神を排除し、神を要らないというものだというのがここでの前提なのです。それは、人類の初めの人アダムが、神に言われていることに違反して、罪を犯したからです。その子孫も、神に言い逆らうようになっています。

2B 神に逆らい、憎む世

しかし、だからこそ神の愛が光っています。神の愛は、神を憎み、神をないがしろにしている人々に向かっています。悪を自分に対して行っているのに、それでも善をもって報いる方に向かっています。私たち人間が考える愛の次元ではないのです。主は、「敵を愛しなさい」と命じられましたが、それをイエスは実行されました。「**神は、実に、…世を愛された。**」というのは、驚きの「愛された」なのです。パウロが、テスへの手紙でこう書きました。「3:3-5 私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快樂の奴隷になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。」

3A 犠牲に表れる愛

そして主は、「**そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された**」と言われます。愛というのは、どれだけの犠牲を払ったかで測ることができますね。ヨハネが第一の手紙で、「3:17-18 この世の財を持ちながら、自分の兄弟が困っているのを見ても、その人に対してあわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょうか。子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。」と言いました。口先だけでなく、困っている人にどれだけの財を与えるのか？ということです。しばしば、「大事なものは心だ」とか言いますが、行いと真実が伴わないのであれば、そこに愛が留まっているわけがありません。

1B 金銀より高価な犠牲

そこで、神はどれほど、ご自身を知らず、ご自身を憎みさえする世を愛されたのか？私たちが、金銀を積み上げるとしても、それがどれほどの価値があるでしょうか？「17:8 賄賂は、その贈り主の目には宝石。その向かうところ、どこにおいても、うまくいく。」なんという言葉が箴言にあります。日産の元会長ゴーン氏が、保釈中であつたのに密出国してレバノン入りしたというニュースが、正月元旦から日本を満たしています。実はレバノンでは、反政府デモが長いこと続いていまして、政府が汚職にまみれていることに対して抗議しています。ゴーン氏は、上の人たちとコネを持っていると言われて、国ごぞって今回の逃亡劇を成功させたと言われていまして。お金というのは、いとも簡単に人を動かせますね。次は生々しい現実として、もしゴーン氏を日本に取り返すにはどうすれ

ばよいか？など話していますが、次はやってはいけないことですが、効果的なのは人質です。「お前が戻ってこなかったら、自分の家族や近い親族に何が起こるかわからないぞ。」と脅します。どんな大富豪であっても、どんなにお金で物が動かせるとしても、自分の愛する人の命には取って替えられません。

ですから、使徒ペテロがはっきりと、どれほどの愛であったかを次のように語っています。「I ペテ 1:18-19 ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」尊い血、とありますが、血は命そのものを表しています(レビ記)。尊い血が流されて、それで私たちは贖い出されたのです。

ここで主は、「**そのひとり子**」と強調しています。ここは、英語ですと「ただ独りの子(the only begotten Son)」となっています。μονογενης(モノゲネース)は、「同種類または同類の意味で独特 what is unique in the sense of being the only one of the same kind or class²」という意味です。アブラハムのことを思い出してください、彼にはイシュマエルが生まれました。けれども主はアブラハムに、「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて(創世 22:2)」と言われました。イシュマエルが兄でイサクが弟ですが、イサクこそがアブラハムと同じ種類の子、つまり神の約束を受け継ぐ子だ、ということです。神がお造りになられた子はたくさんいます。「神の子ら」という言葉が聖書にたくさん出てきますが、その中には、天使のような霊的存在であることが多いです。しかしヘブル人への手紙 1 章にあります。御使いは神に仕えるのに対して、御子は、まったく父と同等のものを有し、受け継ぐことが言明されています。だから、この犠牲が中途半端ではないことは明らかなのです。自分の分身が、自分のものをすべて受け継ぐ者を犠牲にされました。

2B 罪人に対する贈り物

しかも、繰り返しますが、ご自分の独り子を私たちが罪人であった時に犠牲にされたのです。「ロマ 5:6-8 実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」私たちが、神の愛が分からなくなった時、いろいろな試練や困難にあつてその愛が分からなくなった時、十字架に付けられたキリストを見ればいいです。そこに神の涙と、完全にご自身を無にした愛を見ることができます。そしてこの愛は人知を超えていますから、私たちは聖霊に満たされることを求めるべきでしょう。「5:5 私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちに注がれているからです。」

² Louw, J. P., & Nida, E. A. (1996). [Greek-English lexicon of the New Testament: based on semantic domains](#) (electronic ed. of the 2nd edition., Vol. 1, p. 590). New York: United Bible Societies.

4A 世を愛する目的

このままで神がしてくださった目的は何でしょうか？主が言われます、「滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」とのことです。

1B 滅びから免れるため

ここの「滅びる」は、存在しなくなるということではありません。廃墟となり、火と硫黄が流れる地になる、というような意味合いがあります。預言書には、数多く、神に裁かれた町々の姿を描いています。バビロンについて「イザ 14:23 わたしはこれを針ねずみの領地、水のある沢とし、滅びのほうきで一扫する。」とあります。エドムについて、「34:9-10 エドムの川はピッチに、その土は硫黄に変わる。その地は燃えるピッチになる。それは夜も昼も消えず、その煙はいつまでも立ち上る。そこは代々にわたって廃墟となり、もうそこを通る者はだれもない。」とあります。そして、黙示録には獣の国にいた住民が永遠の苦しみを受けるとして、こう言っています。「14:10-11 その者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、神の憤りのぶどう酒を飲み、聖なる御使いたちと子羊の前で火と硫黄によって苦しめられる。彼らの苦しみの煙は、世々限りなく立ち上る。獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者には、昼も夜も安らぎがない。」

1C 罪による当然の結果

このように滅びることなく、というのが、主が、ここで言われていることです。ローマ 6 章の最後には、「罪の報酬は死です。」とあります。報酬とあるように、罪を犯しているのであれば、当然の対価であり、自分自身で支払うべきものです。

2C あらゆることを備えた神

ここで大事なのは、神がそれを望んでおられないことということです。神は、人が生きることができるよう、あらゆる手立てをしてくださいました。イスラエルの民について、イザヤはこう言っています。「5:1-2 さあ、わたしは歌おう。わが愛する者のために。そのぶどう畑についての、わが愛の歌を。わが愛する者は、よく肥えた山腹にぶどう畑を持っていた。彼はそこを掘り起こして、石を除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、その中にぶどうの踏み場まで掘り、ぶどうがなるのを心待ちにしていた。ところが、酸いぶどうができてしまった。」彼らが良い実、すなわち正義や平和の実を結ぶために、主は律法を与え、契約を与え、礼拝を与えてくださいました。良い実を結ぶために、あらゆる良き物を与えられたのに、そこから出てきたのは酸いぶどう、つまり不正や流血だったのです。

主が願って滅ぼされるのではなく、主は悪から立ち直ってほしいと願われているのに、その手助の手を振り払って、自ら滅びに至るというのが現状です。しばしば、地獄に送り込む神は酷いお方だ、という非難がありますが、いいえ、「人々は、聖なる、正しい神がおられる天に入ることを意図的に拒んで、自分の罪を愛せる地獄に行くことを自ら選ぶ。」いうことであります。

3C 人を必要としない神

そして、人々が滅んでも、それは神の正しさが明らかにされるだけです。人類が滅んでも、神がお独りだけになって何ら問題は起こらないはずなのです。「わたしはある」という者であると、神はご自分の名を明らかにされました。そもそも、「1:1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」なのですから、そこに戻るだけなのです。

しかし、神は豊かな憐れみのゆえ、やる義務も必要もないのに、わざわざ、骨折って、人を救う計画を立てておられるということです。それを自発的に、喜びをもって行われているということです。それが聖書全体のストーリーなのです。

これが、日本の人たちにはなかなか、分かりにくいのです。遠慮の文化があります。わざわざしてくださるに及びません、と思います。けれども、神はご自分の愛の性質、いや本質から、そのようにすることを望んでおられるのです。私は、自分がキリスト者として生きるべきかどうか、悩んだ時に、「キリストが自分の罪のために死なれた」ということは理解できました。そこで、悩んでいたのはありません。当然、自分の罪のために、死んだのだと思いました。まるで、交通事故で僕が歩いていたから、イエス様が被害を受けたというように思っていました。罪のための犠牲は仕方ないことだったと思ったのです。けれども、イエス様はいやいやながら十字架の道を進まれたのではありません。イエス様は言われました、「10:18 だれも、わたしからいのちを取りません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、再び得る権威があります。」全くの自由意思から、そうするのだと言われます。そしてヘブル書には、喜びのゆえに十字架に行かれたとあります。「12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。」主がご自分の全くの自由意思で、父なる神の命令に従われて、このわたしのために喜んで命を捨てられたのです！

2B 永遠の命を持つため

そして、御子を私たちに与えられた目的は、「**永遠のいのちを持つため**」であります。あまりにも多くの方が、地獄から救われた、よかったと思っていて、それだけで終わっています。けれども、それが最終目的ではありません。いのちを持つためです。イエス様は父なる神に祈られた時、こう言われました。「17:3 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。」神とイエス・キリストを知ることが、永遠のいのちだと言われています。知るとは、人格的に知ること、親密に知ることを意味しています。頭で理解するのではないのです、知るのです。男が女を知ったというとき、アダムがエバを知ったというときと同じ意味です。だから、神の救いのご計画は、道端で捨てられた赤子を拾い上げ、それを育て、乳房が出てきた女の子になり、神が契りを結び、この女性が王女のように着飾っている姿としてエゼキエルが描いているようなものなのです。教会はキリストの花嫁として描かれ、新しいエルサレムでは子羊の妻と呼ばれ、聖書の最後の最後は、御霊と花嫁が、「黙 22:17 来てください」という言葉で終わって

るのです。そして主ご自身が、「しかり、わたしはすぐに来る。」で終わっているのです。

私たちはヨハネの福音書で、イエスを知る作業をしています。ここにはあまり理屈はいりません。主を見つめるのです、主を見上げるのです、この方の麗しさを眺め、思いにふけるのです。いのちを持つとは、ここにあります。

5A 「一人として」

そして最後に、「御子を信じる者が、一人として」という言葉に注目したいと思います。

「信じる者」とありますが、この「信じる」とは、知的に同意するということではありません。信じるとは、もっともっと能動的なものであります。語弊を恐れずに言うならば、「攻撃的」ですらあります。それは、状況や環境、目に見えるものがそうではないと言っても、「いや、私はイエス様を信じています」と、愛と信頼を込めて決めることなのです。

今、韓国では朴モーセくんについて、話題になっています。彼は、母の胎内にいるときに、後頭部の骨が形成されていないので、脳が頭から溢れ出すと医者から言われ、生存の見込みは100%なく、母体まで危険にさらすから、直ぐに中絶しましょうと言われていました。しかし、クリスチャンであるお母さん、趙ヨンエさんは神の命令を信じて、頑なに拒んだのです。彼女も、義母であるお祖母さんも、教会も、熱心に祈りました。生まれてきた時に、なんと脳に薄い膜ができていて、赤ちゃんを取り上げた瞬間、脳が膜につつまれたまま、流れ出たのです。三日目に手術台上がり、術後も、脳のほとんどを切らないといけなく、生存は不可能だという執刀医の判断でした。しかし今、彼は障害は残っているものの、世界を自分の足で歩き回る、自分の人生を歌う歌手になっているのです！³

信じるとは、こういうことです。能動的なものです。状況が自分にそうではないと言っても、「いや、神がここまで私を愛したのだから、私は、キリストに従います。」と、まるで駆け落ちするかのように信じて、出ていくのです。

それから、「一人として」という言葉がありますね。英語では *whosoever* となっており、「誰であっても」という意味になっています。ここに恵みがあるのです。神に例外はないのです。誰であっても信じる者に、永遠のいのちを与える力を持っておられるし、その意志を持っておられます。つまりは、「どんなに自分がだめだと思っても、神はだめだと思っていない」ということです。どんな人であっても、神の愛から漏れることはないのです。自分は例外だと思っても、例外ではないのです！どうか、愛を受け入れてください、神の愛を受け入れてください。

³ <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=2513479468707873>